

2020年

# 風光れ

人権のたより 通算第 24 号 6 月 22 日発行

三重県立津東高等学校

みなさん、こんにちは。人権教育推進係の山本です。

学校が再開して半月が経ちましたね。

久しぶりの学校生活にもそろそろ慣れてきた頃ですか？



さて、5月25日にアメリカのミネソタ州ミネアポリスで発生したジョージ・フロイド事件（黒人男性のジョージ・フロイドさんが無抵抗だったにも関わらず白人警察官に取り押さえられ、「息ができない」と何度も訴えても膝で頸部を圧迫され続け、死亡した事件）に端を発する抗議デモの様子が、連日、報道されています。これらBlack Lives Matterと呼ばれる運動は、2013年にフロリダ州で黒人少年のトレイボン・マーティンさんが白人警察官に射殺されるという事件が発生した際、SNS上で#BlackLivesMatterというハッシュタグが大きく拡散されたことから始まりました。しかし、このような運動が大きくなるずっと前から、警察官による黒人に対する不当で残忍な行為があとを断たないという現実があったのです。その証拠ともいえるような、18歳の黒人男性キャメロン・ウェルチさんがTikTokに投稿した動画の内容が、今、注目を集めています。

## ～母が作ってくれた若い黒人が従うべき暗黙のルール～

- 手をポケットに入れてはいけない
- タンクトップを着て運転してはいけない
- 買わないものを触らない
- 遅い時間まで外で散歩かない
- 身分証明証なしに外に出てはいけない
- 警察に車を停止させられたら、ダッシュボードに両手を乗せて、免許証と登録証を出してもいいか尋ねなさい
- 警察に職務質問されたら、反論せず、協力的でありなさい など・・・
- パーカーのフードをかぶってはいけない
- 大きな音楽をかけて車に乗ってはいけない
- 何かを買ったらレシートかレジ袋なしで店を出てはいけない
- 白人の女性をじっと見てはいけない
- 誰かと言い争いをしているように見せてはいけない

ウェルチさんはこれら16のルールを11歳になるまでに覚えたといいます。黒人男性が日々の生活の中で自分の身を守るために作られたこれらのルールは、母から息子への大きな愛情を伝えるものであると同時に、アメリカ社会で黒人の人々が長い間さらされてきた差別や偏見、警察官により不当な扱いを受け続けてきた現実を私たちに教えてくれます。

日本人にとっては遠く離れた大陸での出来事であり、「対岸の火事」のような問題なのでしょうか？1960年代、キング牧師がアフリカ系アメリカ人公民権運動を行った際、声をあげ活動したのは、被差別対象であった黒人の人々でした。しかし2020年現在、アメリカから始まったBlack Lives Matter運動は、欧州やアジアにまで連鎖し、白人をはじめとする様々な人種や民族の人々が声をあげ活動しています。私たちも、人類の一員である限り、これは決して無視のできない問題です。他人事ではなく、自分に関わる問題として捉え、何ができるか考えていきたいですね。

## 《音楽 de 考えてみよう》

警官の不当で残忍な行為が行使される現実について歌いあげられている曲です。ぜひ聴いてみてください。

- ケンドリック・ラマー『オールライト』（2015年）
- チャイルディッシュ・ガンビーノ『ディス・イズ・アメリカ』（2018年）